

2014年3月期 第1四半期決算報告

2013年8月9日
第一生命保険株式会社

- それでは、第一生命グループの2014年3月期第1四半期の決算報告を行います。
- いつものように、私から資料に沿って決算内容についてご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧下さい。

- 保険料等収入などトップラインは前年同期比で高い伸びを実現。第一生命単体は4月の料率改定の影響を受けたが、内外成長事業の保険販売が順調に推移
- 第一生命単体で逆ざやが大幅に減少。キャピタル損益も改善し、連結業績を牽引した。成長事業もストックの積み上がりを背景に基礎的収益力の改善が進み、経常利益・四半期純利益は大幅増益
- 第一生命単体・第一フロンティア生命で内部留保を積み増した上で、連結四半期純利益は通期業績予想に対して71%の高い進捗

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、保険料等収入などトップラインは前年同期比で高い伸びを達成しました。4月に行った料率改定の影響で、第一生命単体では貯蓄性商品を中心に営業業績が前年同期を下回る水準となりました。しかし、成長事業である第一フロンティア生命や海外子会社の保険販売は順調に推移しました。
- 第二に、経常利益・四半期純利益も高い伸びを見せました。第一生命単体は円安を背景に利息配当金等収入が高い伸びを示し、追加責任準備金繰入効果により予定利息も減少したことから逆ざやが大幅に減少しました。キャピタル損益も改善し、連結業績を牽引しました。成長事業でもストックを積み上げ、基礎的収益力の改善が進んでいます。
- 最後に、第一生命単体・第一フロンティア生命で、必要な内部留保を行った上で、連結四半期純利益は通期業績予想に対して71%と高い進捗となりました。
- 2ページをご覧ください。

- 連結業績は大幅増収・増益
- 第一生命単体の資産運用収支改善が業績を牽引し、高い進捗率を達成

(億円)					<参考>	
	13/3期 1Q	14/3期 1Q (a)	前年同期比		2013/5/15 発表予想(b)	進捗率(a/b)
連結経常収益	12,016	14,360	+2,344	+20%	46,630	31%
第一生命単体	10,689	10,878	+188	+2%	38,540	28%
連結経常利益	294	842	+547	+186%	1,760	48%
第一生命単体	406	1,013	+607	+150%	1,750	58%
連結純利益	111	263	+151	+136%	370	71%
第一生命単体	225	428	+202	+90%	400	107%

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は前年同期比20%増の1兆4,360億円、連結経常利益は同186%増の842億円、連結純利益は同136%増の263億円と、大幅増収・増益を達成しました。
- この後詳しく説明しますが、第一生命単体における資産運用収支の改善が業績を牽引しました。期初予想に対する進捗率も連結純利益で71%と高水準になっています。
- 次に3ページをご覧ください。

第一生命

連結主要業績

■ 成長事業の保険料収入増と、第一生命単体の運用損益改善が顕著に

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

	13/3期 1Q	14/3期 1Q	増減
経常収益	12,016	14,360	+2,344
保険料等収入	8,883	10,012	+1,129
資産運用収益	2,506	3,391	+884
うち利息・配当金等収入	1,665	1,873	+208
うち有価証券売却益	711	851	+139
うち金融派生商品収益	56	-	△56
うち特別勘定資産運用益	-	547	+547
その他経常収益	626	956	+329
経常費用	11,721	13,518	+1,796
うち保険金等支払金	6,792	7,353	+561
うち責任準備金等繰入額	1,035	3,059	+2,024
うち資産運用費用	1,767	650	△1,117
うち有価証券売却損	127	143	+16
うち有価証券評価損	482	13	△469
うち金融派生商品費用	-	86	+86
うち特別勘定資産運用損	841	-	△841
うち事業費	1,088	1,195	+106
経常利益	294	842	+547
特別利益	39	3	△35
特別損失	68	162	+93
契約者配当準備金繰入額	177	185	+7
税金等調整前四半期純利益	87	498	+410
法人税等合計	△9	251	+260
少数株主損失(△)	△14	△16	△2
四半期純利益	111	263	+151

連結貸借対照表(要約)

	13/3末	13/6末	増減
資産の部合計	356,944	357,349	+405
うち現預金・コール	8,487	7,778	△708
うち買入金銭債権	2,850	2,876	+25
うち有価証券	293,909	292,958	△951
うち貸付金	31,409	31,794	+384
うち有形固定資産	12,362	12,281	△80
うち繰延税金資産	676	1,347	+670
負債の部合計	340,453	342,055	+1,601
うち保険契約準備金	317,038	319,752	+2,714
うち責任準備金	310,125	313,036	+2,910
うち退職給付引当金	4,397	4,108	△288
うち価格変動準備金	892	1,033	+141
純資産の部合計	16,490	15,293	△1,196
うち株主資本合計	5,633	5,745	+112
うちその他の包括利益累計額合計	10,787	9,501	△1,286
うちその他有価証券評価差額金	10,993	9,797	△1,196
うち土地再評価差額金	△369	△372	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益には影響するものではありません

3

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益の増加は、保険料等収入が前年同期比約1,100億円増加したことが主な要因です。第一フロンティア生命や海外子会社の営業業績が好調な反面、第一生命単体の保険料等収入は減少しました。
- 経常費用の増加は、責任準備金等繰入額が同約2,000億円増加したことが主な要因です。これは、第一フロンティア生命の販売増に加えて、特別勘定資産運用損益が前年同期の損失から当期は利益に転じ、これに対応して責任準備金の戻入れが繰入れに転じたためです。これらの特別勘定資産に関する項目の増減は注記にもあるように、経常利益の増減に対してニュートラルです。
- 他方、第一生命単体を中心に有価証券評価損が前年同期の482億円から当期は13億円に減少し、経常利益の増加に貢献しています。
- 最後に、前年同期の法人税等合計は固定資産処分に伴う会計上の税金費用が減少したこと等の影響がありマイナスでしたが、当期はこのようなノイズはありませんでした。
- 次に4ページをご覧ください。

	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【豪TAL】 ⁽¹⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万豪ドル)			(億円)		
	13/3期 1Q	14/3期 1Q	前年 同期比	13/3期 1Q	14/3期 1Q	前年 同期比	13/3期 1Q	14/3期 1Q	前年 同期比	13/3期 1Q	14/3期 1Q	前年 同期比
経常収益	10,689	10,878	+2%	1,067	3,050	+186%	574	660	+15%	12,016	14,360	+20%
保険料等収入	7,639	6,732	△12%	909	2,840	+212%	444	520	+17%	8,883	10,012	+13%
資産運用収益	2,399	3,189	+33%	156	210	+34%	6	43	+564%	2,506	3,391	+35%
経常費用	10,283	9,864	△4%	1,223	3,213	+163%	513	639	+25%	11,721	13,518	+15%
保険金等支払金	6,320	5,982	△5%	266	1,091	+310%	291	355	+22%	6,792	7,353	+8%
責任準備金等繰入額	649	1,243	+91%	466	1,811	+288%	69	125	+82%	1,035	3,059	+195%
資産運用費用	1,353	454	△66%	451	202	△55%	19	7	△62%	1,767	650	△63%
事業費	955	965	+1%	36	100	+178%	113	130	+15%	1,088	1,195	+10%
経常利益(△は損失)	406	1,013	+150%	△ 156	△ 162	—	60	20	△66%	294	842	+186%
特別利益	39	3	△92%	—	—	—	—	—	—	39	3	△92%
特別損失	67	160	+139%	0	1	+34%	—	—	—	68	162	+138%
少数株主損失(△)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 14	△ 16	—
四半期純利益(△は損失)	225	428	+90%	△ 156	△ 163	—	42	9	△78%	111	263	+136%

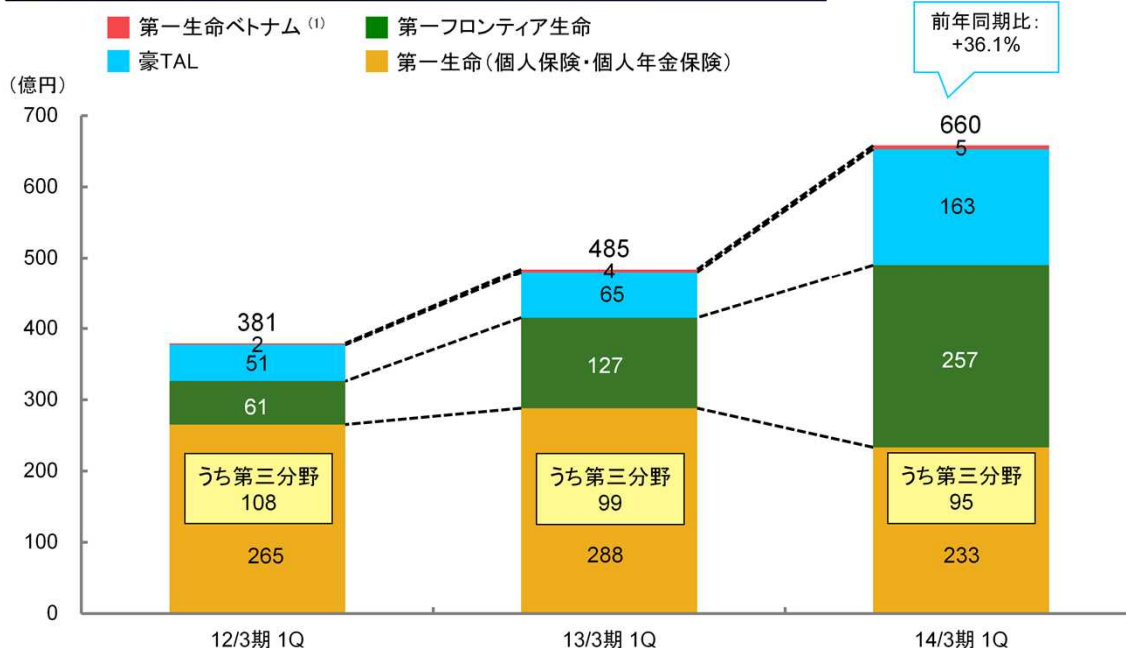
(1) 豪TALの数値は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体では、今年度より予定利率を改定し、保険料体系を見直した影響から、一時払貯蓄性商品の販売が減少したことを主因として、保険料等収入は前年同期比12%減となりました。反面、利息配当金等収入やキャピタル損益は大きく改善し、四半期純利益は大幅に増加しました。
- 第一フロンティア生命では、株式市場の活況を背景に変額年金の販売好調が続いたことに加え、円建て・外貨建ての定額商品の販売も堅調に推移しました。このため、保険料等収入は前年同期比212%増となりました。しかし、変額年金の一部について最低保証にかかる責任準備金の繰入れを行ったこと等により、四半期純損失額は前年同期並みの水準となりました。
- TALは順調に保有契約を積み上げており、保険料等収入は現地通貨建てで前年同期比17%増となりましたが、経常利益・四半期純利益は大幅減益となりました。金利上昇と、景気悪化を背景とする支払請求の増加が影響しました。
- 次に5ページをご覧ください。

第一生命

新契約動向(年換算保険料ベース)

第一生命グループの新契約年換算保険料



(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

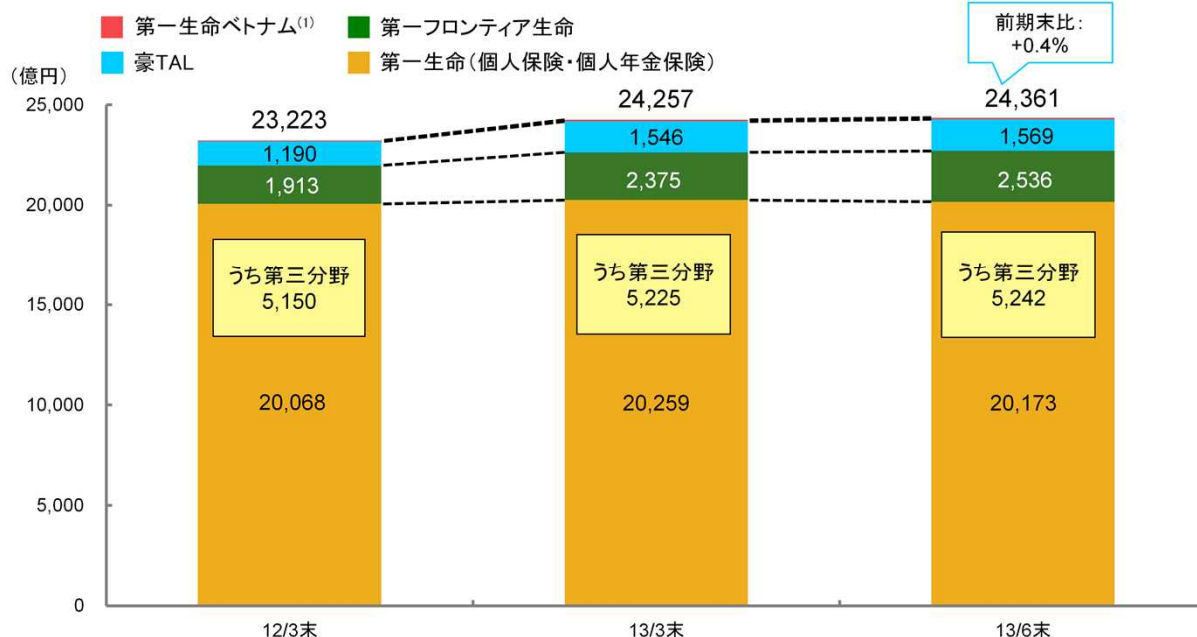
5

- 新契約の動向についてご説明します。
- グラフは第一生命グループの新契約を年換算保険料で示しており、以下は全て年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の新契約は前年同期比18.9%の減少となりましたが、第三分野の新契約は同4.7%減にとどまりました。4月の料率改定に先立つ前年度末の販売増の反動として、第一生命単体の新契約は4月に大幅な落ち込みを見せた後、保障性商品を中心に回復に向かっています。中でも第三分野は5月以降、単月で前年同期を上回っています。
- 第一フロンティア生命の新契約は同102.3%増となりました。その背景は先ほど説明した通りです。
- TALの新契約は、現地通貨建てで同119.2%増、円建てで同150.8%増となりました。詳細は12ページでご説明します。
- 次に6ページをご覧ください。

第一生命

保有契約動向(年換算保険料ベース)

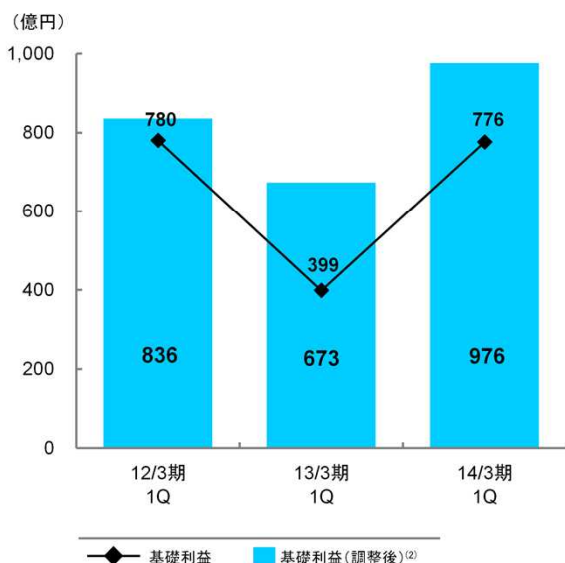
第一生命グループの保有契約年換算保険料



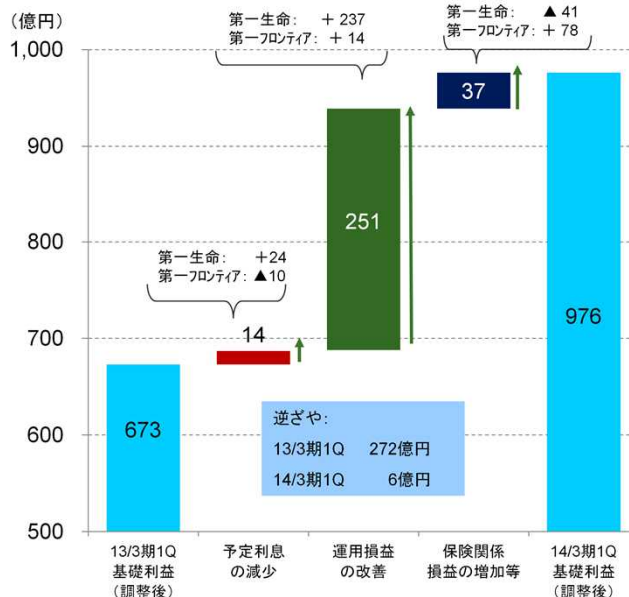
(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。12/3末、13/3末、13/6末の第一生命ベトナムの保有契約年換算保険料はそれぞれ50億円、75億円、82億円です。

- 保有契約の動向についてご説明します。こちらでも年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比0.4%減となりました。うち、第三分野の保有契約は同0.3%増でした。第一フロンティア生命の保有契約は同6.8%増、またTALの保有契約は現地通貨建てで同9.1%増、円建てで同1.5%増など、成長分野の保有契約は高い成長を見せており、グループ全体の保有契約は同0.4%増と、プラス成長を維持しています。
- 次に7ページをご覧ください。

基礎利益⁽¹⁾



基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾⁽²⁾



(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

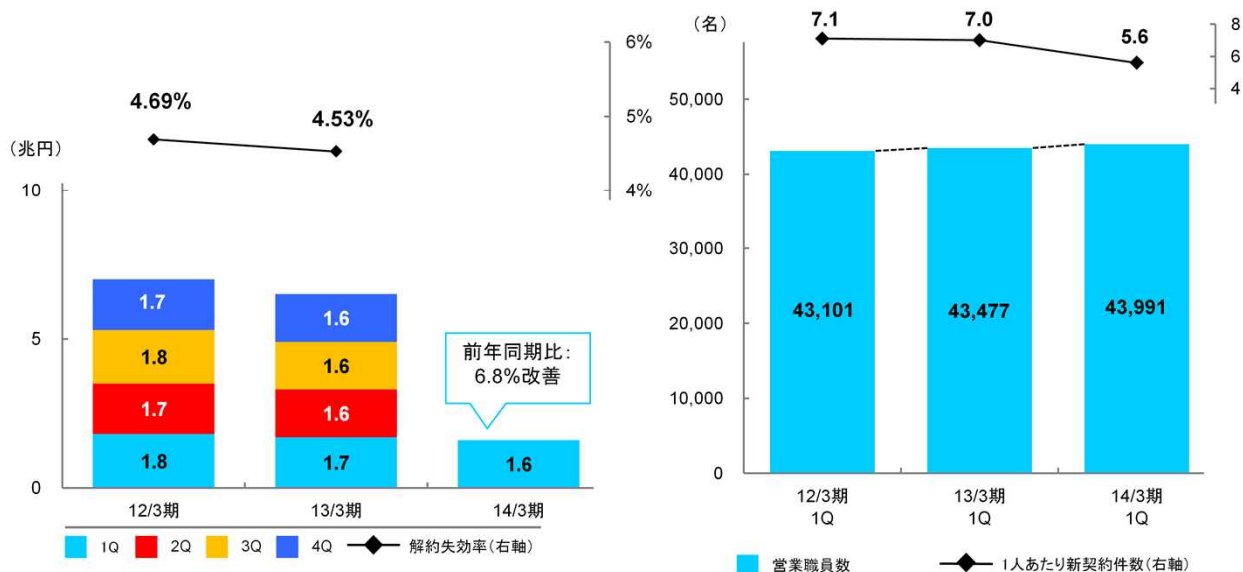
(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額

7

- 国内生保事業の基礎利益についてご説明します。
- 第一生命と第一フロンティア生命合算の基礎利益には、変額年金の最低保証に係る責任準備金の繰入れ・戻入れが変動要因として影響します。この影響を除いた調整後の基礎利益は左の棒グラフで示されるように、前年同期の673億円から976億円へと高い伸びを見せました。
- 第一生命単体では、前年同期に比べ円安が進んだことから外国証券の利息配当金収入が高い伸びを示すなど運用損益が改善したことに加え、追加責任準備金繰り入れ効果により予定利息が減少し、逆ざやが大幅に減少しました。反面、死亡保障を中心とする保有契約の減少などを背景に保険関係損益は若干の悪化となりました。
- 第一フロンティア生命は定額商品の販売増を背景に利差益が拡大しています。預り資産残高の積み上がりを背景とする基礎的収益力の改善に加え、金利上昇に伴う外貨建定額年金の責任準備金繰入負担の減少等、テクニカルな要因もあって保険関係損益は改善しました。
- 次に8ページをご覧ください。

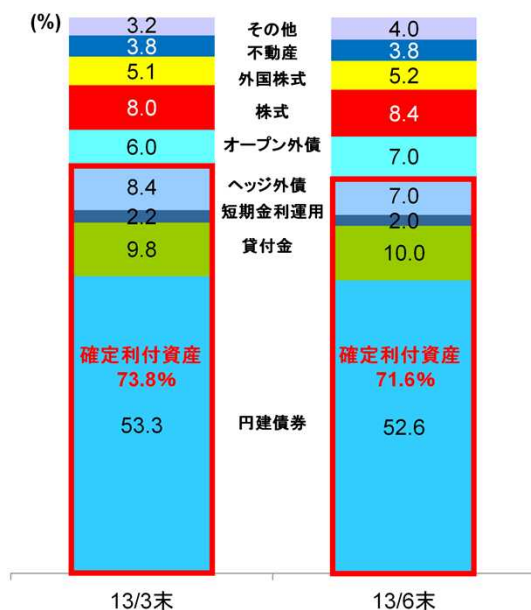
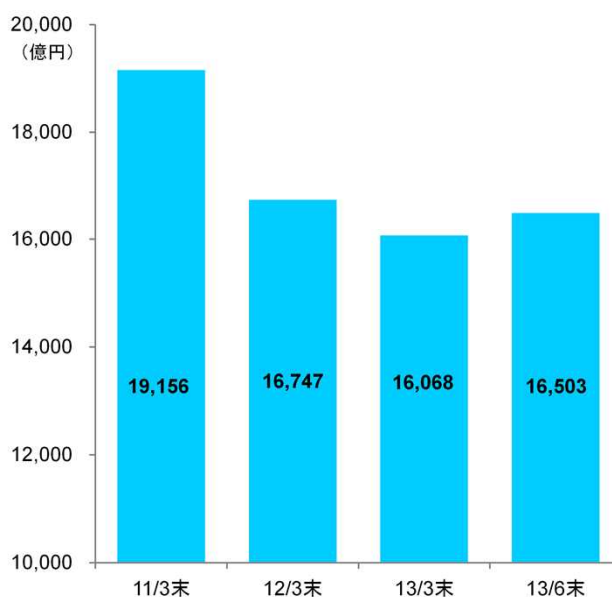
解約失効高(個人保険・個人年金保険)

営業職員数および生産性⁽¹⁾⁽²⁾



(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値(期初・期末の数値より算出)を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。解約失効対策として、過去からの継続的な取組みに加え、お客さま接点を強化した結果、解約失効高は前年同期比6.8%減と改善を続けています。
- 右のグラフは営業職員数と営業職員あたり新契約件数の推移を示しています。営業職員数は緩やかな増加傾向を維持する一方、新契約件数は料率改定の影響を受け貯蓄性商品を中心に販売が減少したため、営業職員あたり新契約件数は減少しました。
- 次に9ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定)⁽¹⁾国内株式の簿価⁽²⁾

(1) 貸借対照表価額ベース

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

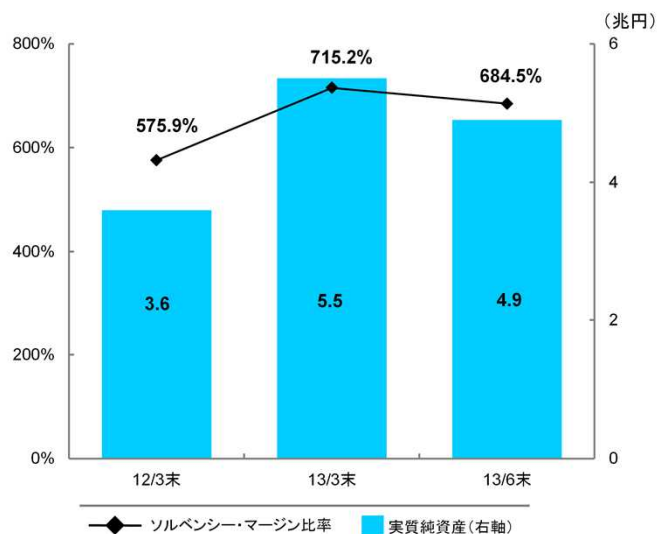
- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建て公社債など確定利付資産中心の運用を行っています。
- 国内株式の保有比率は、時価の変動を主な要因として、前期末の8.0%から8.4%へ上昇しました。右のグラフで示した国内株式の簿価残高は、金融環境変化を慎重に見極めつつ、機動的な資金配分を進めた結果、前期末比で増加しています。ただし、国内株式の売却を進めて行く基本方針に変更はありません。
- 次に10ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

	13/3末	13/6末	増減
有価証券	28,144	20,994	△7,150
国内債券	16,275	9,344	△6,931
国内株式	6,433	7,299	+865
外国証券	5,050	4,021	△1,028
不動産	214	215	+0
その他共計	28,339	21,201	△7,138

(億円)

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



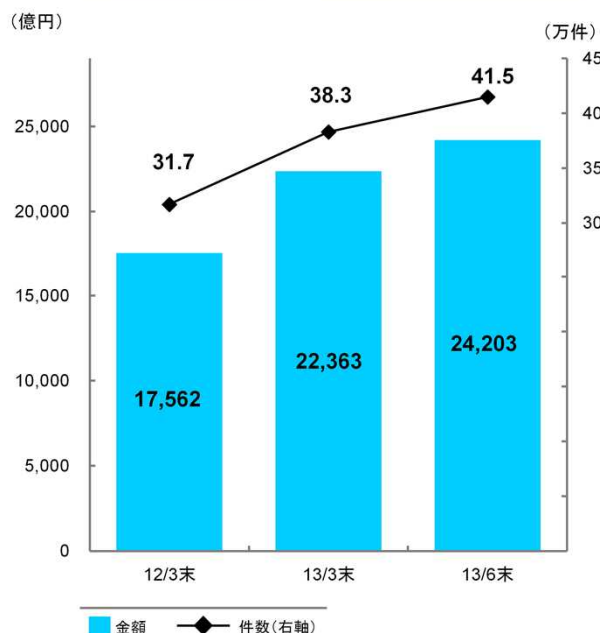
＜参考＞ 2013年6月末 連結ソルベンシー・マージン比率：
663.9%

- 第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示しています。前期末と比較すると、国内株式は市場が堅調に推移したこともあり、増加となりましたが、内外で金利が上昇したことから、国内債券・外国証券の含み益は減少しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシー・マージン比率は、その他有価証券の含み益が減少したことから、前期末に比べ30.7ポイント低下し、684.5%となりました。
- 次に11ページをご覧ください。

第一生命

第一フロンティア生命

保有契約高



収支の状況

	13/3期 1Q	14/3期 1Q
経常収益	1,067	3,050
うち保険料等収入	909	2,840
うち変額商品	58	1,359
うち円建定額商品	404	607
うち外貨建定額商品	336	530
うち資産運用収益	156	210
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	113	0
経常費用	1,223	3,213
うち責任準備金等繰入額	466	1,811
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(B)	266	204
うち危険準備金繰入額(C)	4	46
うち資産運用費用	451	202
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(D)	-	-
経常利益(△は損失)	△ 156	△ 162
四半期純利益(△は損失)	△ 156	△ 163
四半期純利益 - (A) + (B) + (C) + (D)	0	87

【参考】

再保険収支

再保険収入	109	343
再保険料	150	344
再保険収支	△ 40	△ 1

定額年金の市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額

繰入額(△は繰入)	△ 42	1
-----------	------	---

11

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 第一フロンティア生命は、外貨建て商品をはじめ、バランスの取れた商品揃えが強みとなって、販売好調が続いています。保険料等収入は前年同期比212%増の2,840億円となり、また保有契約高は2.4兆円に達しました。ストックの積上がりに従い、基礎的収益力は改善が進んでいます。
- 内外の株価は昨年末から上昇を続け、以前に販売した変額年金の一部については最低保証額がステップアップされたものもありました。ところが5月下旬から、株式市場は米国の量的緩和策の早期終了等を懸念して一時的に調整局面に入りました。この結果、6月末においてはステップアップされた変額年金の最低保証に係る責任準備金として204億円の繰入れ負担が発生しました。
- この結果、四半期純損失は前年同期並みの163億円となりました。
- 次に12ページをご覧ください。

第一生命

豪TAL⁽¹⁾

主要業績

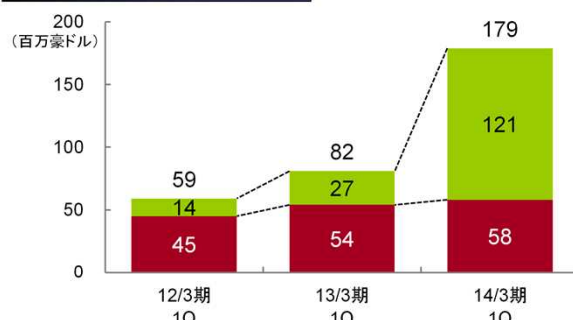
	(百万豪ドル)		
	13/3期 1Q	14/3期 1Q	前年 同期比
経常収益 ⁽²⁾	574	660	+15%
うち保険料等収入 ⁽²⁾	444	520	+17%
経常利益 ⁽²⁾	60	20	△66%
四半期純利益(A) ⁽²⁾	42	9	△78%
修正額(B)	△ 6	13	
うち負債割引率の変化	△ 16	4	
うち償却負担	5	5	
その他	4	4	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	36	22	△37%

<参考>

	12/6末	13/6末
為替レート(豪ドル)	79.65円	91.12円

- (1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



- TALの状況についてご説明します。
- TALの新契約年換算保険料は豪ドル建てで前年同期比119.2%増となりました。団体保険の新契約は料率改定の影響もあり、前年同期の2,700万豪ドルから1億2,100万豪ドルへと大幅に増加しました。
- TALの保険料等収入は前年同期比17%増となりました。TALの保険料等収入は保有契約の動向に連動して安定的に二桁の伸びを続けています。しかし、経常利益・四半期純利益は同大幅減となりました。その背景として金利変動を背景とする会計的影響と、オーストラリア経済の悪化を背景とする影響が挙げられます。
- 金利の上昇は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、利益を押し下げる要因となります。前年同期は金利が低下していたため、当期利益を約1,600万豪ドル押し上げていましたが、当期は金利が上昇に転じ、利益を約400万豪ドル押し下げました。これにより会計上の利益は前年同期比約2,000万豪ドル減少しました。
- さらに、オーストラリア経済の悪化に伴い、当第1四半期は所得保障保険等の支払請求が増加しました。この結果、金利変動の会計的影響を除いた修正利益も前年同期に比べ約1,300万豪ドル減少しました。
- 次に13ページをご覧ください。

- 日本の成長戦略、米国の金融緩和からの出口戦略等を見守る必要があり、連結業績予想は据え置き
- 株式分割考慮後の1株配当予想は20円

	13/3期	14/3期(予)	(億円)
経常収益	52,839	46,630	△ 6,209
第一生命単体	43,159	38,540	△ 4,619
第一フロンティア	7,817	5,950	△ 1,867
TAL (百万豪ドル)	2,386	2,520	+ 133
経常利益	1,572	1,760	+ 187
第一生命単体	1,738	1,750	+ 11
第一フロンティア	△ 286	△ 110	+ 176
TAL (百万豪ドル)	131	130	△ 1
当期純利益	324	370	+ 45
第一生命単体	514	400	△ 114
第一フロンティア ⁽¹⁾	△ 265	△ 99	+ 166
TAL (百万豪ドル)	91	90	△ 1
1株当たり配当金	1,600円	20円 ⁽²⁾	---

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	3,145	2,800程度	△ 345
------------------	-------	---------	-------

(1) 持分考慮後

(2) 2014年3月期(予想)の期末配当金については、2013年10月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当額は、2,000円となります。

13

- 続いて第一生命グループの2014年3月期連結業績予想についてご説明します。
- 世界経済は先進国・新興国共に回復が遅れており、数少ない成長ドライバーである日本経済も、成長戦略の実現如何を見守る必要があります。加えて、米国の金融緩和策からの出口戦略も各国の金融環境に大きく影響を与える可能性があり、年度末までの外部環境についてはまだ不透明な部分が多いと考えられます。これらの理由から、14年3月期の連結業績予想を据え置いています。
- 配当予想は1株あたり20円としています。先の株主総会において、1株を100株とする株式分割案が決議されましたので、10月1日を以って当社の発行済み株式総数は約1,000万株から約10億株となります。これに伴い、配当予想は1株あたり2,000円から20円に変更しています。
- 次に14ページをご覧ください。

第一生命

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(1)

■ 6月末のEVは、金利上昇により約2,200億円増加

第一生命グループのEEV(試算値)

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
EEV	33,419	約35,700	約+2,200
修正純資産	31,288	約27,000	約△4,300
保有契約価値	2,131	約8,600	約+6,500

第一生命(単体、試算値)

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
EEV	33,529	約35,900	約+2,400
修正純資産	32,230	約28,200	約△4,000
保有契約価値	1,298	約7,700	約+6,400

第一フロンティア生命(試算値)

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
EEV	1,293	約1,300	約△0
修正純資産	1,316	約1,100	約△200
保有契約価値	△ 23	約100	約+200

(1) 2013年6月末の保有契約をベースとしています。

(2) 経済前提は2013年6月末、非経済前提は2013年3月末のものをを用いています。また、保有契約価値の計算において、一部簡易な計算を実施しています。

※ なお、上記試算の妥当性について、第三者の検証は受けておりません。

- 2013年6月末の保有契約をベースに6月末の経済前提を使ったグループエンベディッド・バリューの試算を行っています。
- 2013年6月末のEVは修正純資産が約2兆7,000億円、保有契約価値が約8,600億円で、合計約3兆5,700億円となりました。2013年3月末に比べ約2,200億円の増加となります。
- 修正純資産は主に内外の金利上昇による債券価格の下落により、約4,300億円減少しました。
- 保有契約価値は金利上昇により約6,500億円増加しました。
- 次に15ページをご覧ください。

TAL(試算値)

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
EEV	1,726	約1,600	約△100
修正純資産	871	約800	約△0
保有契約価値	854	約800	約△0

<参考>TAL(豪ドルベース、試算値)

(百万豪ドル)

	13/3末	13/6末	増減
EEV	1,762	約1,800	約+0
修正純資産	889	約900	約+0
保有契約価値	872	約900	約+0

13/3末EEV:

13/3末の為替レート(1 豪ドル=97.93円)を使用

13/6末EEV:

13/6末の為替レート(1 豪ドル=91.12円)を使用

(1) 2013年6月末の保有契約をベースとしています。

(2) 経済前提は2013年6月末、非経済前提は2013年3月末のものを用いています。また、保有契約価値の計算において、一部簡易な計算を実施しています。

※ なお、上記試算の妥当性について、第三者の検証は受けておりません。

- TALの2013年6月末EVは約1,600億円でした。契約増加により現地通貨建てのEVは増加しましたが、3月末から6月末にかけて豪ドル安が進んだため、円換算では約100億円のマイナスとなりました。
- 以上で、私からの説明を終了させていただきます。

いちばん、人を考える会社になる。

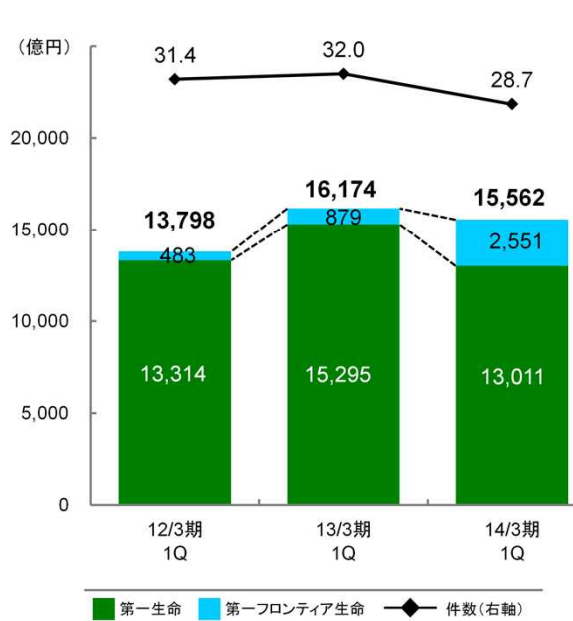
第一生命

参考データ

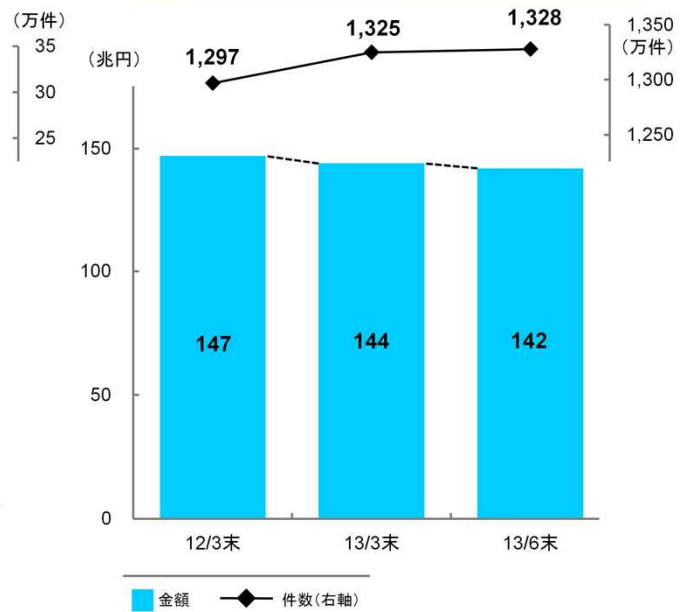
第一生命

契約高の動向(個人保険・個人年金保険)

新契約高⁽¹⁾



保有契約高⁽¹⁾

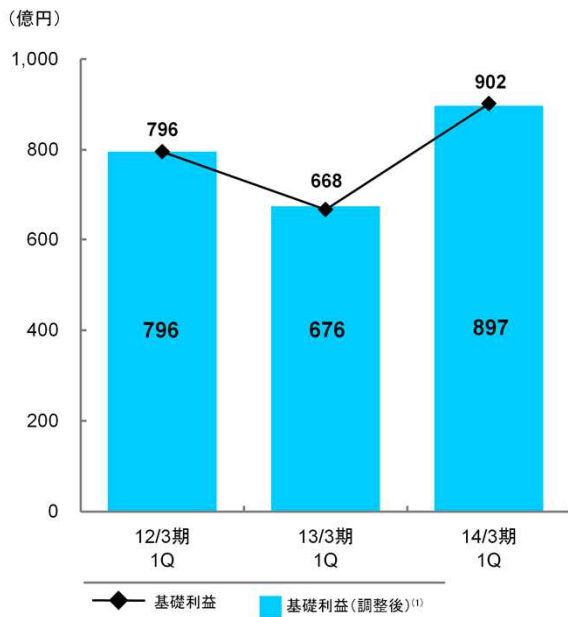


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

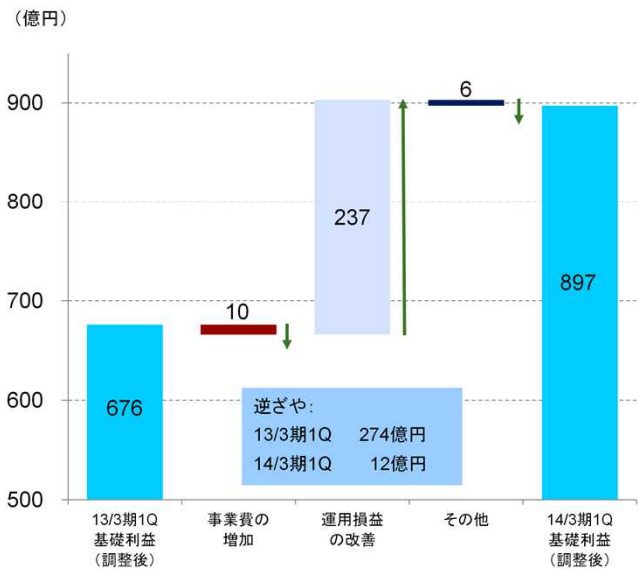
第一生命

第一生命(単体)基礎利益

基礎利益



基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額

第一生命

第一生命(単体)財務諸表(要約)

損益計算書⁽¹⁾

(億円)

	13/3期 1Q	14/3期 1Q	増減
経常収益	10,689	10,878	+188
保険料等収入	7,639	6,732	△907
資産運用収益	2,399	3,189	+790
うち利息・配当金等収入	1,666	1,867	+201
うち有価証券売却益	708	789	+81
うち特別勘定資産運用益	-	455	+455
その他経常収益	650	957	+306
経常費用	10,283	9,864	△418
うち保険金等支払金	6,320	5,982	△338
うち責任準備金等繰入額	649	1,243	+593
うち資産運用費用	1,353	454	△898
うち有価証券売却損	127	143	+16
うち有価証券評価損	494	13	△481
うち特別勘定資産運用損	496	-	△496
うち事業費	955	965	+10
経常利益	406	1,013	+607
特別利益	39	3	△35
特別損失	67	160	+93
契約者配当準備金繰入額	177	185	+7
税引前四半期純利益	200	670	+470
法人税等合計	△24	242	+267
四半期純利益	225	428	+202

貸借対照表

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
資産の部合計	330,724	329,956	△768
うち現預金・コール	7,294	6,811	△482
うち買入金銭債権	2,831	2,856	+25
うち有価証券	271,619	269,311	△2,308
うち貸付金	31,396	31,780	+383
うち有形固定資産	12,360	12,278	△81
うち繰延税金資産	655	1,325	+669
負債の部合計	313,947	314,046	+98
うち保険契約準備金	291,683	292,687	+1,004
うち責任準備金	286,370	287,591	+1,220
うち危険準備金	4,950	5,130	+180
うち退職給付引当金	4,375	4,085	△289
うち価格変動準備金	884	1,024	+140
純資産の部合計	16,776	15,909	△867
うち株主資本合計	6,235	6,511	+276
うち評価・換算差額等合計	10,537	9,394	△1,143
うちその他有価証券評価差額金	10,925	9,776	△1,149
うち土地再評価差額金	△369	△372	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

第一フロンティア生命財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	13/3期 1Q	14/3期 1Q	増減
経常収益	1,067	3,050	+1,983
うち保険料等収入	909	2,840	+1,931
うち資産運用収益	156	210	+53
経常費用	1,223	3,213	+1,990
うち保険金等支払金	266	1,091	+824
うち責任準備金等繰入額	466	1,811	+1,344
うち資産運用費用	451	202	△249
うち事業費	36	100	+64
経常利益(△は損失)	△156	△162	△6
特別損益	△0	△1	△0
税引前四半期純利益(△は損失)	△156	△163	△7
法人税等合計	0	△0	△0
四半期純利益(△は損失)	△156	△163	△7

貸借対照表

(億円)

	13/3末	13/6末	増減
資産の部合計	23,731	25,172	+1,440
うち現預金・コール	625	449	△176
うち有価証券	22,365	23,878	+1,513
負債の部合計	23,086	24,743	+1,656
うち保険契約準備金	22,699	24,511	+1,811
うち責任準備金	22,684	24,495	+1,810
うち危険準備金	924	971	+46
純資産の部合計	645	429	△215
うち株主資本合計	572	408	△163
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,277	△1,441	△163

第一生命

豪TAL財務諸表(要約)

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	13/3期 1Q	14/3期 1Q	増減
経常収益	574	660	+85
保険料等収入	444	520	+75
資産運用収益	6	43	+36
その他経常収益	122	96	△26
経常費用	513	639	+126
保険金等支払金	291	355	+63
責任準備金等繰入額	69	125	+56
資産運用費用	19	7	△12
事業費	113	130	+17
その他経常費用	19	20	+0
経常利益	60	20	△40
法人税等	18	11	△7
四半期純利益	42	9	△33
修正利益 (Underlying profit)	36	22	△13

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	13/3末	13/6末	増減
資産の部合計	5,499	5,569	+69
現預金	467	455	△12
有価証券	2,808	2,805	△2
有形固定資産	-	0	+0
無形固定資産	1,263	1,256	△7
のれん	783	783	-
その他の無形固定資産	480	473	△7
再保険貸	48	56	+7
その他資産	910	995	+84
負債の部合計	3,688	3,749	+60
保険契約準備金	2,611	2,687	+75
再保険借	295	305	+9
その他負債	680	650	△29
繰延税金負債	101	106	+5
純資産の部合計	1,810	1,820	+9
株主資本合計	1,810	1,820	+9
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	180	189	+9

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

金融市場への感応度(2013年6月末、第一生命単体)

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2013年3月末:1,700億円)	日経平均株価 ¥8,900 (2013年3月末:¥8,600)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,300億円の増減※ (2013年3月末:2,400億円) ※その他有価証券区分:400億円の増減 (2013年3月末:500億円)	10年国債利回り 1.2%※ (2013年3月末:1.2%) ※その他有価証券区分:1.5% (2013年3月末:1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 280億円の増減 (2013年3月末:260億円)	ドル/円 \$1 = ¥88 (2013年3月末:¥84)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。